

わたしの実践的自己啓発論 2

koberyo1

自己中心的な考え方は、おのずと反社会的にして結果的に不道徳的な行動を招くから、おおいに損をしている、といえる。いつの時代、古今東西、けっして受け入れられないばかりか、最後にはそうした思考をもって行動した者らは消えてゆくしかない。

そうした「損をする思考、行動」に反し、ソクラテスではないが「おのれ自身」を知り、「素直」をけっして変わる事のない心の羅針盤としてきた。これこそ元パナソニックの元社主、松下幸之助翁の考え方をヒントにわたし自身が編み出した自己啓発法である。さらに昭和の高度成長時代をサラリーマンとして生き抜いてきたわたし自らがおおいに学び、実践してきた人生哲学である。

このわたしが考案し、実践してきた「実践的自己啓発法」であって、若い人たちにおおいに利用していただきたい方法で、むずかしい理論ではないのである。

一生で一番大切なことは、正しい生き方を「クセづけ」することで、世の中に必要とされる人になれるのである。

それには、まず時間を大切にすることである。

継続は、ものごとの本質、真髓が開示され、全人生を激震させるほどの驚愕のよろこびが、人間に与えられることがあるのである。

こうした経験が積み重なることで能力は磨かれてゆくが、同時に人間力といったものが深まってゆくのである。

わたしは「はやく大人になりたい」と思って映画を昭和のはじめの時代、たくさん見たものだった。

しかし、じつは世間それ自体が、--そう、気がついてみれば現実それ自体が、「世間」という映画であったのだ。

大人になるということは、社会を映画をみるように客観視し、自己成長をうながすための「道場」とみなすことである。そのことに気づいたのである！

実際の映画館にかかる映画をみれば入場料がとられるが、しかし、「世間」という映画のなかで働けば、波乱万丈のドラマをみずからが主人公となつたのしみながら、なおかつ、労働の対価として「お金」までもらえるのである！

そうなのだ。「世間」という映画はどこのでもある。田舎にも都会にもある。

そして世間は同時に「道場」、学校でもあって、しかもこの学校は入学金がいらぬ

のだ。それはすなわち、真剣に生きるということ。もてる知恵と力をフルに動員し、生きつづけることである。

モノゴトを一つ、達成するためのは失敗がつきものだ。世界の偉人たちが繰り返し実行してきたのは、失敗から学ぶということだけだった。

失敗から学ぶなら成功はたやすい。しかし、失敗から学ぶのはひどくむずかしい。そのためには、ニンゲンは「素直」でなくてはならない。素直であればこそ、失敗からの学びが身につくのである。素直でなければ心が腐ってしまう。失敗を認めるのはつらいからだ。

素直になるためには「心」が変わらなければならぬ。変われば失敗にハートが開かれるし、モノゴトにたいする姿勢がオープンマインドになる。受け身ではなく、事態を積極的に「考え」ながら主体的に受けとろうと変わるからだ。

そのために「行動」もまた、変化を余儀なくされるだろう。行動を合理化するのが、ゴールを達成するための近道であることに気づくのである。いちいち計画するのではなく、無意識のうちにカラダが動くように「クセづけ」をしたり、「よい習慣」を身につけたりするようになる、自己をみずからを行動をする人間に改造し、啓発しようとする意欲が、ふつふつと湧いてくるのだ。そうなるとシメたものだ。こうなってくると「人格」が変わってくるからだ。「人格」が変化してくると吸収力が身についてくる。そうなると、どんどん変化が生まれ、「運命」さえも変わるということはよく指摘されることである。

しかし、イキナリ心を変えようとしてもむずかしい。そんなとき、アタマではなく、まずカラダを動かしてみるのはどうしたらよいだろう。まずはみずから行動を駆り立てるのである。

たとえば、こうしてみたらどうだろう？ まず早起きする。大きな声でアイサツをする。これまでやれなかったことに敢えて挑戦してみる。料理をつくってみるのもいいだろう。トイレの掃除を実行してみる。すると自分の心や行動に変化が生じてくる。

よい習慣をもち、それを継続してゆくと心も明るく、澄み渡ってくる。肯定的にすべ

てが良い方向に変わってゆくのだ。習慣が習慣として身につくようになるのだ。

ただ、習慣化を容易ならしめるコツは、ただ一つ。気づきがあったら「スグ」実行に移すことだ。

これは実に大切なことである。なんでもとにかく「スグ」やることだ。スピードがない行動はあまり好ましくないことだ。「スピード」こそ価値ある習慣として身につけたいものである。人格に直接、影響をしてくる習慣であることはまちがいのないことである。

習慣や、良いクセが身につけば、今度はみずからがプランし、自分というものを作りあげることができるのだ。

すなわち、PLAN、DO、SEEの実行である。

自分の生活を計画し=PLAN、行動し=DO、チェックする=SEEのよって、計画したことが上手にできたかを反省するのである。

PLAN、DO、SEEを三ヶ月から半年、休みなくつづけることで少しずつ良い行動をとることができるようになってくる。

このように一生懸命、生きて仕事をすることは自分にとって、のちのち財産になったと思っている。長い目で過去をみると、非常にラッキーであると感謝している。それは生き方の基本を教えてもらったからで、生き方の基本がわかるということは人生の半分は成功したのとおなじことなのである。

いま、自分はいかなる世界情勢のもとに生きているか、よく知る必要があるかと思う。

この平和が日本だけに限定されていることを知る必要があるかと思う。

多くの犠牲のうえに、この平和があることを忘れてはならない。

日常的に情報遮断がなされ、国民に知る権利が与えられていない国など無数にあるのだ。

世界は危険にみちみちている。なのに、人々は平和であるすぎて、これがタダであると勘違いしている。

これほどまでに平和で自由な国は、むしろ珍しい部類に属しているとかんがえたほうがいい。この平和に慣れきった、ぬるま湯につかり、努力しなくていい、と思うのは大きな間違いである。

今一度、世界情勢を謙虚な眼でみていただきたい。どことはいえないが、日本を狙っている国があることを忘れてはならない。

武士道精神など、日本人が長い歴史のなかでつちかい、蓄積してきた財産を、若い人たちがこれから真剣になって守ってほしいと願うばかりである。